

可燃ごみを減らそう！生ごみたい肥化プロジェクト

対 象：ご近所住民（自治会）
 人 数：5名
 教科／分野：資源・ごみ
 授業時間数：（単発でも、連続でも可） 3回
 場 所：（屋外の場合は雨天時の対応も）集会所

ESD プログラ ムへの 想い	毎日必ず出る生ごみは、もともとは野菜、穀物、肉、魚など、自然界の恵みです。可燃ごみに含まれる生ごみ量は約3割。生ごみの約8割が水分です。生ごみをたい肥化し自然に戻す、そして可燃ごみを運び燃やし処理するエネルギーを減らす、一石二鳥の生ごみからたい肥作りを実践する仲間を一人でも多く増やしたい。		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が生ごみも自然界の一部であり、自然に戻るものだと実感できる。 ・学習者が、家庭から出る生ごみを可燃ごみにせず、たい肥作りにチャレンジし楽しくできるようになる。 ・学習者が出来たい肥を地域で活用し緑化やコミュニティの活性化に貢献する。 		
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの排出を減らすことができる。（3Rの実践） ・住んでいる地域の自治会等と連携をしたり、将来的にサークル活動のように取り組める可能性がある。（コミュニティへの参加、活性化） 		
持続可能 な社会づ くりの構 成概念	<ul style="list-style-type: none"> ・有限性（食糧も限りがある。食の循環を考える手がかり） ・責任性（食の循環に対する責任） ・連携性（グループ内での連携、身近な地域との連携） 		
重視する 能力・態 度	<ul style="list-style-type: none"> ・③多面的、総合的に考える力（生ごみのたい肥化は、買い物、調理、食事、後片付けという食の一連の流れ全てにかかわる。さらに植物を育てる肥料を作り、育て、食べ、たい肥を作り、という小さな循環を完成させる。どの要素も欠くことはなく、バランスよく考える力が大切。） ・⑦他者と協力する態度（都会では、自然物と触れ合うことが少なく、有機物が土の中で変化していくこと、虫との共存など、生ごみたい肥作りのノウハウから縁遠いことが多い。しかし3人集まれば文殊の知恵のように、数人集まればお互いに不足を補いあったり、励ましあったり、知恵や工夫を出し合うことができる。気の合う仲間協力したい。） 		
プログラムの流れ			
時 間	ねらい	方法 場所	内 容
1.5	住む自治体の資源・ごみ事情を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・自治会の集会所 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体の資源・ごみ担当者を招き、自治体の状況のレクチャーを受ける。 ・資源・ごみについて、普段思っていることを話し合う。 ・自分のやり方を省み、改善できることを考える。

2	生ごみたい肥化の方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・自治会の集会所 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみたい肥化の普及啓発活動を行っている NPO を招き、たい肥化の方法を学ぶ。
2	参加者同士で、問題、課題を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみたい肥化は、自然相手なので教科書通りにはいかない。土と触れることの少ない人にとって、自然は未知でグロテスクな世界でもある。問題や課題を持ち寄り、楽しく続けられるように知恵やアイデアを共有する。
4	地域で発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみのたい肥で育てた野菜を使った豚汁等を、地域のイベントで提供しながら、生ごみたい肥化と、その肥料を使って育てた野菜や植物を紹介する。そして仲間を募る。
SDGs との関連性	<p>12.4 2020 年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、<u>化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。</u></p> <p>12.5 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、<u>廃棄物の発生を大幅に削減する。</u></p>		
学校・地域等との連携上の考慮	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の植栽部など活動中のグループと協力できるように、心がける。 		
対象を展させる可能性	地域の自治会		
その他補足事項	たい肥作り（腐葉土、洗濯ネット、容器、米ぬか、生ごみ）		

プログラム作成者名（団体名）：中村明子（環境パートナーシップちば）